

鷗澤總明 おみづらみ 辯護士、法哲博士、法學博士。明治五年八月、一日千  
 葉縣生れ、昭和二十七年十月、二十一日歿（八七二—一九五五）。幼名惣市。號  
 椿漱、椿漱學人。明治二十二年東京帝國大學法科大學獨法科卒。卒業  
 と同時に辯護士開業、爾後日比谷焼打ち事件、大逆事件、帝人事件等  
 の辯護を擔當。四十二年衆議院議員（當選七八回）、と憲政友會所屬。  
 昭和二年貴族院議員。また永く明治大學教授を務め、九年以降數次總  
 長就任。十五年大東文化學院總長。戰後東京裁判では日本側辯護團の  
 團長を務めた。

著書に『法律と道德との關係』（明治二十八年、二月、二十日自刊、修補  
 再版）『法律と道德との關係（王道解説の基礎的提案）』（昭和八年八月  
 、二十五日大東文化協會）、『椿漱論集』（大正五年四月十八日自刊、  
 春秋社）、『洗塵』（大正九年一月十五日清水住之助刊、春秋社）、  
 『老子の政治思想の概観』（大正十五年十二月二十三日大東文化協  
 會）、『法律と道德との關係  
法學通論』（昭和五十九年六月明治大學「明治大  
 學創立百周年記念學術叢書」）等。石川止悛著『鷗澤總明（その生涯  
 と政治的生涯）』（昭和二十一年一月十五日技報堂）刊。

